

清潔な身だしなみに心がけ、けじめのある言動をする子

岸 田 富 夫

はじめに

I 男は、M中学校心障児学級を卒業後、本校高等部に入學した。おしゃれへの関心はとても高いにも関わらず、洗顔、洗髪、歯磨きをしない等、矛盾した生活習慣がみられ、清潔感に欠ける部分が多くある。性格は人なつこいが、大人のいない場面では粗野なところもあり、約束やきまりが守れない等、人間関係は必ずしも良好とはいえない。うわべだけのおしゃれではなく、生活から生まれ出るおしゃれや清潔さ、けじめのある言動を身につけ、誰にでも好印象を持たれるようになってほしいと願って実践したことについて述べてみたい。

1. プロフィール

(1) 生 育 歴

- ・昭和52年5月30日生 17歳9か月、高等部2年男子

出生時の体重2510g 仮死状態で生まれ、酸素蘇生器6分間使用後第I啼泣した。

- ・小学校まで鳥取と京都の転園転校を繰り返し、鳥取M中学校卒業後、本校へ入学、現在に至る。
- ・母親は昭和57年に死亡、父親と祖母との3人暮らしだが、放任の傾向がある。

(2) 諸検査による実態

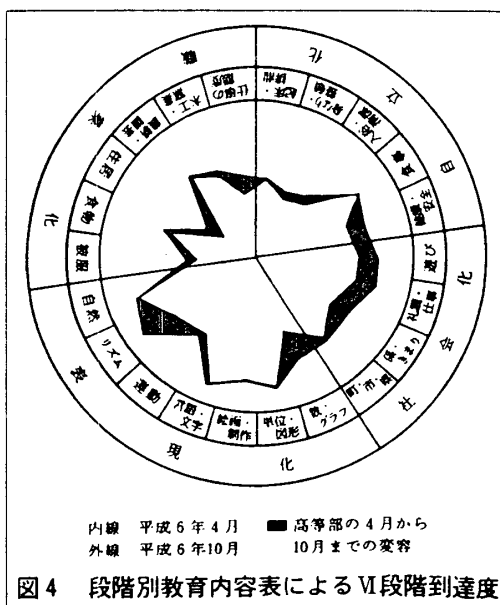
- ・WISC-R 言語性67、動作性65、IQ63(平成5年4月実施)
- ・S-M社会生活能力検査(平成6年5月実施)

社会生活年令 7歳1か月。身辺自立に落込みがみられ4歳8か月であった。

- ・段階別教育内容表VI段階到達度円型プロフィール(右下図参照)

(3) 行 動 特 性

- ・身体を使った粗大な作業には、どんなに苦しくても意欲的に取り組む。
- ・父子家庭という家庭環境のため、身辺の清潔や食事等の基本的な生活習慣が定着していない。
- ・安易な方向に流れやすく、指導的立場の大人がそばにいないと怠惰な態度や問題行動をしてしまうことが多い。
- ・指示を正しく聞き取り、覚えて行動に移すことが難しく物事を最後までやり遂げることを苦手とする。
- ・場や相手によって、言葉づかいや態度を使い分ける。特に同年代の友だちに対して腹が立つと感情的になり、乱暴な言動もみられる。



2. 取り組みの構想

(1) 指導仮説

個人目標 清潔な身だしなみに心がけ、けじめのある言動をする子

つきたい力

- ・相手を意識して、正しく聞き取って覚える力
- ・善悪の判断と怠惰な方向に流されない力
- ・自分のできることやできないことを理解する力
- ・基本的生活習慣の定着と生活経験の拡大

コミュニケーションに視点をあてた取り組み

コミュニケーションの目標

相手の立場を考え素直な受け答えをする子

仮説

清潔感のなさやごまかしや嘘が多いことから好印象を持たれにくいI男にとって、人に好かれる自分作りをしていくことや人との関わり方を学習することが必要である。生活一般や課題学習での洗濯や身辺処理などの基本的生活習慣に関わる具体的方法を学習することにより、どうすることが清潔なのか、またその習慣を身につける心地よさを体得させることができると考えた。

自分の生い立ちや将来の夢などを学習し、自分自身の今の力を知ったり、「こんなふうになりたい」というイメージを持たせることにより、自主的に清潔にしようと努めたり、素直に人と関わろうとしたりできるようになるのではないかと考えた。

また、他とのやりとりを確実なものとするためには相手を意識して、よく聞き、わからないことは聞き返すというような応答する力を身につけることも必要と考える。

その他の取り組み

下肢に骨格異常があるI男は、歩き方がぎこちなく筋力が弱く柔軟性にも欠ける。

活動的だが基礎体力はあまりなく健康管理が十分でないため、風邪を引き易いので、生活リズムを整えて規則正しい生活をさせたい。

朝の活動のトレーニングによる下肢の訓練や上肢の筋力アップ、10分間走で、体力を養い、全身の発達を促していきたい。

また、児童生徒会活動にも関心が高いので、積極的な参加をすすめ、友だちとの協調性を養ったり責任感を持って活動に取り組もうとする意欲を育てていきたい。

(2) 指導方針

- ① 望ましい自分の姿、自分の将来をイメージさせることにより、現在の自分のあり方や努力していることを考えさせる。
- ② けじめのない行動や嘘をついた場合にはなぜ良くないのか理由を考え、どういう行動をするのが良かったのかを具体的に知らせる。
- ③ 行事や学習については、事前指導より事後指導に重点を置き、自分を省みる機会と次への課題を考えさせるような場の設定をする。
- ④ 生活力を向上させるため、自分の事は何でも自分でできるように学習に取りあげる。

- ⑤ 何をどのようにすればよいのか具体的に分かりやすく提示し、取り組みやすくさせる。
- ⑥ 常時活動のある係や当番を担当させ、責任を持ってやり遂げる態度を養う。



洗面の指導

3. 指導の実際

(1) 日常生活の指導

① 指導の内容

- ・身辺処理を家庭から自主的にできるように導く。

② 実践例

はじめの実態	手 だ て	変 容
<p>清潔さがなく、毎朝の歯磨きや洗顔をしてこず、学校から指導を受けてする事が多かった。また、していないことをしたと嘘をついてしまう。</p> <p>家での食事は外食が多く、自分で用意しようとしていない。</p> <p>制服の下からカッターシャツが出ていたり、ズボンの下から短パンが出ていても平気である。汚れた下着をいつまでも着ていたり、4～5日入浴しなくても何とも思わなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝必ず身だしなみのチェックを学級全体で行い、清潔面の意識を高める。 ・少しでも自主的な取り組みとなるように、自己点検表を作り、○を記入することや、父親に点検を受けることを励みにした。 ・家庭での過ごし方について指示しどう過ごしたら良いのかを体得させていく。習慣として定着するように内容は取り組みやすい段階のものから始めた。 ・日記を通して帰宅後の生活の様子を把握する。 ・父親への協力要請 	<p>学級全体での身だしなみチェックにより、友だちの目を気にし、恥ずかしい事だと分かって、自分から洗顔歯磨きをするようになった。清潔にすることの心地よさを感じ取った為と思われる。最初は指導者によるチェックが必要であったが、自分でチェック（自己点検表を使って）するようになり、現在はチェック表がなくてもできる日が多くなった。身だしなみのチェックは等身大の鏡でさせているが、顔以外には注意が向かず、だらしない格好でも、気付かないことが多く、まだ声かけを必要とする。家庭での過ごし方については、自分から「何をしたらいいですか」と尋ねたり、「昨日～をしました」と報告することが多くなり、身の回りの清潔や家の整頓等が家庭でできるようになってきた。</p>

(2) 生活一般「私の成長」での実践

① ねらい

- ・自分を見つめ直す力を育み、前向きに自分を向上させていく意欲を高める。
- ・自分の課題を理解し、生活に必要な実践力を拡大する。

② 実践例

「私の成長」は、今までの自分を振り返り、知らなかった過去に出会えるよさを持った題材である。

活 動 内 容	取 り 組 み の 様 子
1. アルバムの写真を見て、自分の成長を振り返る。	アルバムの中の写真を見て、「懐かしいな」「僕は小さかったな」等と感慨深そうにし、自分の事を調べてみようという興味を示した。

<p>2. 母子健康手帳と父親からの取材メモをもとに誕生から幼年期を振り返り、ワークシートに記入する。</p> <p>3. 小学校から今までの心に残った出来事や思い出をワークシートに書く。</p> <p>4. ワークシートをもとに「僕の成長」を年表に書き写真や絵を張り付けて仕上げる。</p> <p>5. 「僕の成長」を発表する。</p>	<p>母親を5歳の時に亡くしているが、母子健康手帳に記された、母親の字や、出産時の様子を読み、改めて「母」の存在を実感していた。</p> <p>自分の事なのに、初めて知ったことが多かったことが分かり、両親や周囲の苦勞に対しても、中学校時代の自分に対して悪いイメージを持っているため、その部分については過去のものとして触れたくない様子が伺えた。</p> <p>発表会では意欲的に挙手して1番に発表し、最後に「これから、父と2人暮らしになるので、自分の事はもっと自分でして、御飯とかも作って父を助けて頑張りたい」と自分の思いを自分の言葉で表現した。</p>
---	--

(3) 職業科及び校内職業実習での実践

① ねらい

- ・指示を正しく聞き取って作業に取り組み、はきはきと報告や質問ができるようにする。
- ・丁寧さや正確さを意識して作業しようとする態度を養う。

② 変容例

	コース別（活版印刷班）	校内職業実習
初めの実態	<ul style="list-style-type: none"> ・指示が理解できていないのに「はい」と返事をし、違うことをしてしまうことが多い。 ・人に尋ねることをしないため、時間がかかりすぎ、作業が進まない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・返事をしなかったり、報告や、質問の時だららした態度がある。 ・手早さに気を取られ、丁寧さを意識して作業しない為、不良品が多い。また、不良品を出したことをごまかそうとする。
変容	<ul style="list-style-type: none"> ・指示が理解できなかった時には、「もう一度言って下さい」と聞き直すようになった。 ・作業の様子を振り返って、自分の良くなかったことや努力したことを発表できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりのペースで一息懸命作業をした。 ・慣れが出て、時々作業が雑になることがある。 ・不良品を出してしまった時には、自分の失敗を素直に認め、自主的に報告をするようになった。

4. 考察と今後の課題

身の清潔さを心がけるようになってきたため、他に好印象を与え、友だちとの関わりもスムーズになってきた。後期から児童生徒会の副会長として、執行部の活動に関わり、11月の「学習発表会」では、あまり覚えの良くない彼が終りの挨拶の言葉を覚えて、大勢の観客の中でけじめある挨拶をすることができた。

自分で身だしなみに気を付けるようになってきたとはいえ、まだまだ、指導的立場の人が必要なI男である。今後も生活のリズムが崩れがちになる長期の休みの過ごし方、家庭との連携の取り方、等の課題にも取り組んでいきたい。



自分の成長について説明するI男